

人生会議(ACP)に関する 取組状況について

人生の最終段階における医療・ケアの普及・啓発の在り方に関する報告書 (平成30年3月29日公表) 抜粋

普及・啓発の目的と必要性

- 人生の最終段階において、本人の意思に沿った医療・ケアが行われるようにするためには、人生の最終段階における医療・ケアについて繰り返し話し合う取組が、医療・介護現場だけではなく、国民一人一人の生活の中に浸透し、「生を全うする医療・ケアの質」を高めていくことが必要。
- このため、国民全体に対し、人生の最終段階における医療・ケアについて、アドバンス・ケア・プランニング(ACP)※等の概念を盛り込んだ意思決定及びその支援の取組の重要性について、一層の普及・啓発が必要。

※ 人生の最終段階の医療・ケアについて、本人が家族等や医療・ケアチームと事前に繰り返し話し合うプロセス

普及・啓発の内容・方法(抜粋)

- 普及・啓発は、対象の属性に応じ、提供する情報の内容や支援方法を次のとおり分けて検討することが必要。
 - ① 人生の最終段階における医療・ケアの在り方を自分ごととして考える時期にある方
 - ② ①の方を身近で支える立場にある家族等
 - ③ 本人や家族等を支える医療・ケアチーム
 - ④ 国民全体

本人や身近な人のもしものときに備えて、日頃から考え、家族等の信頼できる者と繰り返し話し合いを行い、その内容を共有しておくことが重要であること

【国】考える日の設定や、この日に合わせたイベントの開催、関連情報のポータルサイトやeラーニング等の学習サイトの開設、**ACPについて国民に馴染みやすい名称の検討**

【地方自治体】リーフレットの配布、市民向けのセミナーの開催

【民間団体】結婚、出産、介護保険加入、介護休業、退職等のライフイベントに関連する手続きの機会を通じたリーフレットの配布、セミナーの開催

【教育機関】学校における生命や医療・ケアに関する授業や講義の機会を通じ、人生の最終段階における医療・ケアに関する教育 等

人生会議(ACP)のロゴマーク選定について

人生の最終段階において、本人が希望する「生を全う」するためには、本人の意思が尊重された医療・ケアが行われる必要がある。そのため、事前に家族等や医療・ケアチーム等と繰り返し話し合う取組が重要であり、こういった取組が国民一人一人の生活の中に浸透するよう、「ACP愛称選定委員会」を開催し、国民に馴染みやすい愛称を「人生会議」と決定したところである。今般、愛称を選定した「ACP愛称選定委員会」において、「人生会議(ACP)」のロゴマークを決定した。

【ACP愛称選定委員会構成員】（敬称略・五十音順）○は座長

○内多 勝康(国立成育医療研究センターもみじの家ハウスマネージャー、元NHKアナウンサー) 小藪 千豊(タレント)
小山 薫堂(放送作家、脚本家、京都造形芸術大学副学長) 鈴木 美穂(認定NPO法人マギーズ東京共同代表理事)
新浪 剛史(サントリーホールディングス代表取締役社長) 樋口 範雄(武蔵野大学法学部特任教授)
紅谷 浩之(オレンジホームケアクリニック代表) 松原 謙二(公益社団法人 日本医師会副会長)

【選定方法】

厚生労働省ホームページにて人生会議(ACP)のロゴマークを広く一般に公募し、応募総数67件の応募の中から、ACP愛称選定委員会の合議により候補を選定し、商標登録等がなされていないことを確認して決定した。

【選定結果】

2月28日に開催したACP愛称選定委員会での議論の結果、「本人が中心であることがわかりやすい」「Pに見えることも、プランニングや本人はプリンシパルであるという観点から良い」という意見等を踏まえ、澤渡和男氏(東京都在住・医師)が提案したロゴマークに決定した。



【広報活動】

- ・ 人生会議(ACP)の普及・啓発を図ることを目的として厚生労働省ホームページにおいて、4月24日に公表。
※ 掲載HP https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_02783.html
- ・ 都道府県、医療・介護関係団体及び経済団体等に対して、「人生会議」を広報に御活用いただくよう周知。
- ・ 今後、人生会議(ACP)の更なる普及・啓発に向けた取組を行う予定。